

暑かった夏がようやく終わりました。夏の風物詩といえば高校野球がありますが、夏は生徒たちにとって合宿や大会など夏休み特有のメニューがあります。部活での思い出を懐かしく感じるOBもいると思いますが、この夏も生徒たちは汗を流し心身を鍛え思い出を作ったことでしょう。また、指導する先生方は大変な努力を重ねたことでしょう。

このように自分のため或いはチームや学校のために努力する生徒たちが始まるといいますが、15歳・16歳の少年が起す凶悪犯罪が最近続いていることが冷然とした時初めて事の重大さと罪の重さに気付きます。自分にとっても相手にとってもかけがえのない人生を一時の感情で狂わせたり奪ってしま

たことに何ともやりきれない思いがします。部活でも趣味でも何か一つ自分に熱中できることか好きなことを見つけて続けていくようにすればこうした過ちを起さずに済んだのではないかと考えたりします。

この年頃は家庭から社会へと生活範囲を広げていく時期ですが人生はこれからです。もう少し気楽にいろいろな可能性を探ることをして欲しいと思いますし、大人側にもそうした配慮が必要のように考えます。深友会は深中生徒のこの夏の活躍に大きな拍手を送り、生徒の健やかな歩みに声援を送りつけていくことを会の目的の一つにしています。

深友会（深沢中学校同窓会）会長・嶋村勝美

「はやまらず、ゆっくりいこう」

深沢中学校
同窓会報

深友会だより

第3号

鎌倉市立
深沢中学校
深友会事務局

〒247-0063
鎌倉市梶原1-14-1
☎0467-44-1222

ソフトボールとバーベキューで懇親会
恒例になった深中の教職員と深友会の懇親会が、七月一日（土）午後三時から深沢中学校で行われました。例年のように梅雨時にもかかわらず好天に恵まれ、前半はソフトボール大会で汗を流し、後半はにぎやかにバーベキューパーティーで盛り上がり、楽しい親睦のひとときを過ごしました。



バーベキューパーティ



夏の大会で

深中生が大健闘

今夏、部活での深中生の活躍はめざましいものでした。まず陸上部では七月に平塚で行われた県大会で永井菜実さんが三年女子の百メートル走で、十二秒四四の記録で第一位に輝き、八月の関東大会では怪我による調整ミスで予選落ちしたものの、続く長崎の全国大会では準決勝まで進み十二秒八一の記録で全国十二位と健闘しました。

水泳では中野ちえみさんが横浜国際プールで行われた県大会に出場、百メートルバタフライで一分八秒二九、二百メートルメドレーで二分三秒六一と共に関東記録を突破、千葉で行われた関東大会ではそれぞれ第十位、第十七位とがんばりました。

女子ソフトテニスでは守川祐美・谷口恵組が厚木の県大会で準々決勝まで進出し、個人戦でベスト八に入りましたが実力的には他の出場ペアと大きな差はなく、大健闘でした。

吹奏楽部は横須賀芸術劇場での県大会で金賞を受賞、九月の栃木での関東大会で銅賞に輝きました。

他の部活もよく頑張った「深沢魂」を発揮したと思います。

深沢中・深友会担当 坂本工



母校での教育実習を終えて

第45回生（平成5年卒業）

芹川 千聡

私は保健体育の教育実習で六月五日から二十三日まで、深沢中学校にお世話になりました。手塚校長先生、指導教諭の上杉先生をはじめ、たくさんの方々に指導いただき大変勉強になりました。

私が深沢中学校に在学していた頃は、各学年平均七クラス程ありましたが、現在では四〜六クラスと減り寂しい気もしました。しかし、生徒の明るさは以前と変わりなく安心しました。

クラブ活動においても市内で上位に

位置しているクラブも多く、私の在学中よりも良い成績を納めているようです。体育の授業には、生徒一人一人が活発に動いており、そのパワーに大変驚かされました。

他の教育実習生が二人いましたが、保健体育は三週間であつたため、生徒との交流も多くできたと思います。さらに保健体育の授業は、他教科と違って生徒との距離が近いので、他の二人よりも貴重な体験ができました。

中学生の頃に、体育の教師を目指すようになりましたが、今回実際に指導する立場になると教師という職業は大変であると感じました。そして、人間を教育する立場にある教師の役割は非常に重要であると思いました。ただ専

門教科を教えるだけでなく、様々な分野で指導にあたらなければならないと三週間という短い間で感じたが、先生方の中で少しずつ感じる事ができたと思います。

実習前は色々不安もありましたが、以前と変わらない深沢中学校での実習は毎日勉強であり、時には驚きの連続でとても充実した日々を過ごすことができました。

最後になりましたが、深沢中学校の発展と活躍を期待して、私も教師という目標に向かってがんばりたいと思います。



平成11年度卒業生の進路状況

●公立高校

七里ガ浜16名 深沢14名 大船12名 鎌倉11名 大清水10名 藤沢9名 長後9名 湘南8名 藤沢北4名 大船工業技術4名 藤沢西3名 湘南台3名 横須賀工業2名 外語短大付属・平塚工業・藤沢工業・吉田島農林・平塚商業・平塚西工業技術・学芸大付属・鎌倉養護・藤沢養護各1名

●専修・専門学校

厚木高等専修・武蔵国際総合学園・文化学院各1名

●私立高校

湘南工科大附属22名 日大藤沢18名 平塚学園18名 旭丘16名 藤嶺藤沢14名 鶴沼女子13名 藤沢商業7名 山手学院6名 逗子開成5名 横須賀学院4名 北鎌倉女子4名 相洋・桐陰学園・桐光学園・アレセア湘南・明倫各3名 横浜商工・鎌倉学園・聖和学園・横浜学園各2名 横浜隼人・相模女子・湘南学園・白鵬女子・横浜女学院・鶴見女子・横浜英和女子・宮沢学園・三浦・掘越学園・香川誠陵・柏木学園・森村学園・岩手女子・沼津学園各1名

◇就職 2名

深友会からの

お知らせとお願い

予定より遅れましたが、なんと第3号まで来ました。この先も長く続けられるか否かは、ひとえに皆様の賛助金にかかっています。今年もよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

ご住所が変わって戻ってくるケースが増えています。変更の際は事務局までお知らせ下さい。

ご投稿、同期会やクラス会の情報、写真などお寄せ下さい。また最近同級生の名簿を作製された方は一部お送り下されば幸いです。

事務局への通信、賛助金お振り込みの際は、整理の都合上、ご面倒ですが卒業年度と旧姓をご明記下さるようお願い申し上げます。



けん玉考

深沢中学校長 手塚雄一郎

先日、部屋の片付けをする中で私の古いアルバムに目が留まり、白黒がセピア色に変わった何枚かの写真を懐かしく見入ってしまいました。坊主頭でみすばらしい服を着た私と弟が写っている写真があり、その二人の足下にはけん玉が転がっていました。そういえばさつき片付けた棚の中にけん玉があった。しばし、けん玉で遊ぶこととなった。振りけん・止めけん・野球回し・地球一周・飛行機・灯台・モシカメ等々技を思い出しながらやつてみると結構うまいものだとい人悦に入り、何人かいれば天下だの〇〇だのと遊べるものにとったりしたものです。

昔の遊びといえばこのような安上がりな玩具がほとんどで、それを大事に大事にして遊んだものです。今はご承知のように高価なパソコンやコンピュータを組み込んだ玩具での遊びに夢中になっています。それならばと本校職員室にあるパソコンに向かいインターネットでけん玉を検索してみました。

剣玉・拳玉とも書き、江戸時代の文献に出てくるが本当の起源は不明で、大正時代に日本の木地玩具職人の発明から今のような十字形に柄をつけ、皿を三つにするようになった。また、剣

玉の剣は太平洋戦争のさ中に勇ましさを強調するためこの字を用いたともいう。さらに、けん玉の持ち方・技などを詳しく教えるうんちく講座やけん玉

Q&A、けん玉ライブラリー、フランスのけん玉・こけしのけん玉などの変わり種や日本けん玉協会のこと、全日本けん玉選手権大会についてなど情報がいっぱい出てきました。けん玉だけでこんなに豊富な情報が次々と得られるのですから今の生徒たちがパソコンやインターネットに夢中になるのもわかるような気がしてしまいました。

しかし、けん玉は集中力や足腰を鍛える健康運動として見直されている話もあり、また、技術だけでなくメンタルな面も十分に持ち合わせ、成就感・達成感を味わう楽しみもあります。私はちよつと前のヨーヨーの流行のようにはけん玉の復活するのを密かに待っているのです。

最後に私のとっておきの情報をひとつ。けん玉の糸はたこ糸や水糸より土木測量に使うトランシット（図参照）の錘を下げる下振用糸がよじれたり切れたりしないのでベストです。



トランシット

同期会だより

●第七回生（昭和三十年卒業）

平成八年十月、卒業以来四十一年ぶりに長谷の蓬来閣で第一回目の同期会を開きました。



第7回生同期会

音堅先生と旧姓馬場先生のご出席を仰ぎ、集まった同期生は三十一名でした。

第二回目は平成十一年九月十二日に片瀬の松川實館で、旧姓馬場先生を囲んで二十八名が集まり、思い出話に、また二次会場の深沢のハルミでのカラオケに楽しい時を過ごしました。次回は三年後に開催の予定です。（嶋村 清）

●第十二回生（昭和三十五年卒業）

昨年九月四日、十年ぶりの同窓会を北鎌倉の「鉢の木」で開きました。私達の頃は殆どが深小から深中へ進学したため、小中合同で行っており、小学校から鈴木（美代子）、河口（美世子）、



第12回生同期会

丸山（忠重）、中学校から飯山（敦子）、源波（敏雄）の各先生をお招きし、過去の倍近い約七十人の同期生が出席しました。卒業後四十年も経過すると当時の面影は全く無く、殆どの男性はハエが止まれぬほど頭の陸地が広くなり、会話もその事から始まり健康、近況、思い出話の順に進み、二次会、三次会と延びて最終帰宅者は朝刊配達の間だったとか。その後半年の間に二度のミニ同窓会も行い、いずれも最終帰宅者は新聞屋さんに挨拶しながらだったとか。なんと仲の良い仲間達よ。次回は現役引退の還暦を迎える五年後位に開催できたらと考えております。（内海末勝）

・同期会の情報、写真などを事務局までお寄せください。（編集部）

懐かしい木造校舎と

個性的な先生方と…

第14回生（昭和37年卒業）

白橋清次

昭和34年の4月、諸様の学生服に、梶の葉の校章がついた学帽をかぶり、布製のカバンを肩から掛けて少しばかり大人になったような気分中学生になった。当時の校舎は木造の2階建て1棟、それでも小学校の校舎より新しく明るかった。玄関の右に職員室があった。校舎の前に、立派な和風の庭園があり、池には大きな鯉が泳いでいた。あの校舎も今はなく、当時を偲ぶものは、深沢小学校の校庭にある大きな銀杏の木のみになった。

中学生にとって、先生方は何か近寄り難い存在であったが、先生によって、緊張と緩和を使い分けて授業を受けていた。2、3年になると、教室の後ろで騒いだり、試験範囲を狭めようと先生を質問攻めにして授業を妨害したりした。今振り返ると、ずいぶん先生方を困らせたものだ。1年と3年のときの担任は数学の善福先生だった。九州訛の朴訥とした話し方で、正義感の強い、毅然とした態度に教育者としての信念を感じた。英語の佐々木先生、東北訛の日本語だが、英語はスタンダー



昭和35年当時の先生方

の石井先生がゲジゲジ。体育の中川先生が赤パン。これらは我々が名づけた。白のトレパンが主流であった時代に、中川先生の赤いジャージ姿は颯爽としていた。田舎の中学校に、陸上部を作り、早々に大会で好成績を挙げ深中

生に自信をつけさせた。授業では、東京オリンピックを数年後に控えた新しい体育を教えてくれた。音楽の吉川先生は、ベートーベンのような風貌を漂わせていた。他に、理科の音堅先生や渡辺先生、国語の源波先生、家庭科の小倉先生、数学の飯山先生、英語の安藤先生らがおられ、教壇で熱心に授業をされている姿が浮かんでくる。小柄な吉松校長からはよく励ましの言葉をいただいた。

あれから40年、農村だった深沢から、田んぼや畑が姿を消し、都会に変貌した。一緒に学んだ約100名の仲間も、50代の半ばに差し掛かり、髪の毛に白ものが多くなりつつある。だが、顔を合わせれば、一気に中学生に若返る。気の置けない仲間と先生方の思い出とありし日の深沢中学校を心ゆくまで語り合いたいものだ。

秋の鎌倉を「歴史散歩」

昨年十一月十四日、内海恒雄先生を講師にお迎えして深友会の「歴史散歩」の集いが、会員やその家族など二十数名が参加して行われました。

爽やかな秋晴れの当日、午前十時に鎌倉駅に集合、英勝寺から寿福寺を経て、銭洗弁天で昼食。その後海蔵寺、浄光明寺、最後に再び寿福寺に戻って午後三時過ぎ解散しました。普段は見られない英勝寺の内部や寿福寺の仏殿などをめぐり、社寺建築をはじめ仏像の観賞の方法や史跡にまつわる歴史などを、先生のユーモアに溢れた解りやすい説明で学びながら、途中、源氏山へのハイキング気分も交えて、楽しい秋の一日を過ごしました。「一目から鱗が落ちたよ」というのが殆どの参加者の感想でした。



歴史散歩——浄光明寺境内にて

秋の一日を過ごしました。「一目から鱗が落ちたよ」というのが殆どの参加者の感想でした。

